

あいさつ

秋谷栄之助

創価学会「法華経写本シリーズ」の8冊目となる『ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文「妙法蓮華経」——写真版(鳩摩羅什訳対照)』が、西夏語研究の世界的権威であられる西田龍雄京都大学名誉教授に編者をお引き受けいただき、このほど刊行される運びとなった。西田先生をはじめ出版にたずさわっていただいた皆様に心から感謝申し上げたい。

同写真版は、上記東洋学研究所サンクトペテルブルク支部と財団法人東洋哲学研究所が、両者間で取り交わした「交流協定」にもとづき、東洋学研究所同支部が所蔵する西夏文法華経の写本ならびに刊本を写真で紹介し、西夏文の翻訳原典となった鳩摩羅什の漢訳『妙法蓮華経』と対照したものである。

本書に収録された写本・刊本のうち、カラー写真のものは、1998年11月に同支部と東洋哲学研究所が共同開催した「法華経とシルクロード」展に展示された西夏文法華経である。また白黒写真のものは、池田大作SGI(創価学会インタナショナル)会長に贈られたマイクロフィルムに収められていたものである。

西夏語文書がこれほどの美しいカラー図版を用い、まとまって紹介されることはまれであるとうかがっている。

歴史書等によると、西夏国は11世紀はじめごろから13世紀にかけてシルクロード東部一帯を治め、東西交易の地の利を得て繁栄し、敦煌など多民族が住む国際色ゆたかな都市を領していた。また、独特の西夏文字を創案した文化国家であり、多くの仏典等を翻訳し人々が親しんでいた仏教国である。その中で、妙法蓮華経は信仰を集めていたようで、翻訳に皇帝自らも深くかかわっており、また、第25章である観世音菩薩普門品(観音経)には所説を描いた挿絵入りの本も刊行されていた。

今は歴史の彼方に消え去ってしまった西夏の国においても、法華経が幅広い民族・社会的地位の人々から篤く尊崇された事実には、感慨もひとしおである。

私ども創価学会、SGIは、21世紀こそ平和の世紀に、との願いをこめて平和・文化・教育の広範な運動を世界各地で展開しているが、そのバックボーンが、古来「経王」と称えられる最高の経典・法華経に示される「人間の尊厳と平等」の精神にほかならないからである。

法華経の輝きは、SGIの平和運動の進展とともに長遠の時間をこえ、さらに鮮明になっていくと確信している。

私どもの法華経写本シリーズは、学術的価値の高い法華経原典を写真版とローマ字版の形で出版し、世界の仏教研究の進展に寄与していきたいとの構想のもと、1994年1月に委員会を発足させ、すでに7冊を刊行してきた。

その背景には、池田SGI会長に各国の研究機関から貴重な法華経の各種写本の複製版が贈呈されていたという経緯もあった。

シリーズ出版に着手して以来、10年がたち、ほぼ所期の成果を収めることができた。

ここで、シリーズ全体を記しておきたい。

1. シリーズ 1 『旅順博物館所蔵梵文法華経断簡——写真版及びローマ字版』
(1997年5月3日発行)
2. シリーズ 2-1 『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本 (No. 4-21)
——写真版』 (1998年11月18日発行)
3. シリーズ 2-2 『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本
(No. 4-21)——ローマ字版 1』 (2001年5月3日発行)
4. シリーズ 2-3 『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本
(No. 4-21)——ローマ字版 2』 (2004年3月25日発行)
5. シリーズ 3 『カーダリク (中国新疆ウイグル自治区)
出土梵文法華経写本断簡』 (2000年5月3日発行)
6. シリーズ 4 『ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華経写本
(Add. 1682およびAdd. 1683)——写真版』 (2002年3月26日発行)
7. シリーズ 5 『東京大学総合図書館所蔵梵文法華経写本
(No. 414)——ローマ字版』 (2003年11月25日発行)

一連の出版に対し、サンスクリット写本研究の権威であられた故・戸田宏文

徳島大学名誉教授の全面的なご協力をいただいた。

シリーズ1『旅順博物館所蔵本』の出版は故・蔣忠新中国社会科学院教授のご尽力による。

シリーズ2『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本——写真版』及び『ローマ字版』の出版では、サニマイヤ・ラナ元館長はじめ同公文書館の関係者の方々の協力をいただいた。戸田先生には写本の現地写真撮影にあたり、カトマンズに同行していただき、またローマ字版の出版に際しては、編者をお願いした。

シリーズ3『カードリク出土本』は、ドイツ・ゲッティンゲン大学インド仏教学研究所所長であられたハインツ・ベッヘルト博士の提案により、同研究所員クラウス・ヴィレ博士が編集されたものである。

シリーズ4『ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華経写本』では、D・J・ホール副館長をはじめクレイグ・ジェイミスン氏など関係者のご支援をいただいた。

シリーズ5『東京大学総合図書館所蔵梵文法華経写本——ローマ字版』は、戸田先生のご指導のもと、東洋哲学研究所委嘱研究員の小槻晴明氏が編者として献身的にたずさわってくださった。

シリーズ6である本書は、ユーリー・A・ペトロシヤン博士(元所長)、エヴゲーニイ・I・クチャーノフ博士(前所長)をはじめとする東洋学研究所サンクトペテルブルク支部の諸先生ならびに編者・西田先生のご尽力のたまものである。

西田先生には、1980年(昭和55年)に東洋哲学研究所が刊行した『続シルクロードと仏教文化』に「西夏語仏典について」という貴重な論文をお寄せいただくなど、長年にわたりお世話になっている。今回も労苦をいとわずお引き受けいただき、途中、ご病気に倒れ大手術を受けられながらも、作業を継続し完成させていただいた。衷心より感謝申し上げます。

さらに、この写真版に対する詳細な注ならびに解説の論文も別途、ご執筆の労をとっていただいている。世界の西夏研究および法華経研究にたずさわっている方々とともに、西田先生のご健康とご長寿をお祈り申し上げ、その刊行を大いに待望するものである。

このように各種写本の出版は、学術的意義を理解していただいた多くの方々の協力によって実現したのである。

幸いにも、インド学、仏教学、仏教文献学などの研究にたずさわる世界の研究者や専門家から高い評価と賞賛をたまわっている。責任者としてこれ以上の喜びはない。

ここに、出版にかかわってくださった皆様、写本を管理されている各研究機関の関係者に、重ねて衷心より御礼申し上げます。

最後に、今後も仏教を基調とする幅広い運動を広範に展開し、世界平和の実現にまい進していくことをお誓いする。あわせて、この写本研究をめぐる一連の学術事業については、東洋哲学研究所を中心にさらに地道な研鑽をお願いし、あいさつとしたい。

(あきや えいのすけ／創価学会会長)

(本稿は、2005年3月31日に出版された『西夏文「妙法蓮華経」——写真版
(鳩摩羅什訳対照)』の「あいさつ」を転載したものです)